

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	特定非営利活動法人鳥の劇場	
施設名	鳥の劇場	
内定額	26,268	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		354	354
年間事業本数（※1）	主催事業	12	11
	公演事業	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	人材養成事業	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	2	2
	普及啓発事業	1	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	3
	その他 内容： 新施設建設事業	5	1
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	0
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	3,260	3,437
	公演事業	2,720	2,440
	人材養成事業	277	665
	普及啓発事業	102	181
	その他 内容： WSなど	161	151
	貸館事業入場者・参加者数	0	0
	その他 内容： 受託・共済事業 視察、見学等	3,225	2,245
	計	6,485	5,682
施設の利用率(%)		100.0%	

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	4	31	2,720	58.0%	4						
	共催・提携公演（※2）	8	23	1,839	79.0%	8						
	貸館公演（※3）	0	0	0	0.0%							
	計	12	54	4,559								
令和6年度	主催公演（※1）	6	30	1,844	47.6%	6						
	共催・提携公演（※2）	6	37	3,456	62.0%	6						
	貸館公演（※3）	0	0	0								
	計	12	67	5,300								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	家族を考える 安部公房 『友達』	目標 値	390	72.2%	観客の満足度(アン ケート)	「満足以上(満足・大変満足)」の回答が 回収されたアンケートの75%以上	92.80%	目標値を十分に達成できた		
		実績 値	345	63.9%						
公-02	家族で楽しむ美しいイタリ アの寓話『梨といっしょに売 られた子』	目標 値	1,512	76.4%	観客の満足度(アン ケート)	「満足以上(満足・大変満足)」の回答が 回収されたアンケートの75%以上	96.60%	目標値を十分に達成できた		
		実績 値	588	29.7%						
公-03	三島由紀夫の世界「近代 能楽集」より『弱法師』『卒 塔婆小町』	目標 値	480	75.0%	観客の満足度(アン ケート)	「満足以上(満足・大変満足)」の回答が 回収されたアンケートの75%以上	72.20%	目標値を概ね達成できた		
		実績 値	370	57.8%						
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	事業番号1【友達】 「学生・子どもの観客率」(チケットによる判断)	学生・子どもの観客率 25%	42. 8%	春の大型連休期の公演は、親子連れや若者の来場が多い傾向があるが、学生・子どもの観客率が目標を大きく超えて達成できたのは、静岡県舞台芸術センターとの共同事業という話題性が寄与したのであろうか。 新規観客の割合は、アンケートに基づくものなので、精度に若干の不確かさはあるが、新型コロナパンデミックを経て、劇場芸術の価値への見直しの動きがあり、鳥の劇場の活動の地域への浸透もあり、この数字になったのではないだろうか。		
	事業番号2【梨っこ】・3【弱法師、卒塔婆小町】 「新規観客者の割合」(アンケート回答より)	新規観客者の割合 10%	27. 8%			
人材養成事業	事業番号1【小鳥の学校】 参加者が事業への参加を経て、「学ぶことの楽しみ」を感じる事ができたか(インタビュー)	「学ぶ楽しみを感じた」という回答を過半数以上得る	100%	両事業とも、参加者との継続的で深いコミュニケーションを通じて、演劇の面白さと大変さをしっかり伝えている。その成果としてこの数字が生まれたと考える。		
	事業番号2【おとなな劇場】 参加者が事業へ参加して、充実した時間を過ごすことができたかどうか(インタビュー)	「学ぶ喜びを感じた」という回答を過半数以上得る	100%			
普及啓発事業	事業番号1【タイムスリップツアー】 参加者が事業において演じることの喜びを感じたかどうか	「演じることの喜びを感じた」との回答を過半数以上得る	100%	事業番号1は、9月の炎天下、劇場近くの城下町での野外公演だったが、多くの観客にも支えられ、充実した体験となったようだ。 事業番号2は、演出家とともに戯曲を音読し、その世界を味わいつつ、戯曲の読み方のコツを知ってもらもの。参加者全員が、戯曲という文学の面白さを感じてもらえたようだ。 事業番号3は、創作体験ワークショップ。演劇や映像の創作の面白さを感じてもらうことができた。		
	事業番号2【戯曲講座】 参加者が事業への参加を経て「戯曲の新たな魅力」を感じられたかどうか(インタビュー)	「戯曲の新たな魅力に触れることができた」という回答を過半数以上得る	100%			
	事業番号3【大型連休WS】 参加者が事業への参加を経て新たな体験や知識を得られたかどうか(アンケート)	事業に参加してみても「新しい体験をした」「新しい知識を得た」という回答を過半数以上得る	100%			

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・公演事業事業番号1において、静岡県舞台芸術センターでの同作上演を見て、「面白かったので、鳥取にもきた」という観客、少なからずがあった。二つの劇場の共同事業という企画性が、観客に響いた結果である。 ・人材養成事業番号1では、子どもたちによるオリジナル台本で作品を作った。自分たちで、衣装、音楽、小道具なども担当するという創作は、子どもたちの創造性を大きく刺激した。学校にあまり通えていなかった参加者(中学生)が、この事業で力を得て、春から学校に通っている。 ・人材養成事業番号2で、参加者から以下のコメントがあった。「不幸な出来事があってふさぎ込んでいたが、思い切って参加した。「人生の先輩が生き生きしているのが嬉しく、自分自身の80代90代のロールモデルに出会えた気分がした。日常とは違う自分になることができて、発揮できたことが嬉しかった。」
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
(国際交流) A 「小鳥の学校(人材養成事業)」での海外の演劇指導者を招聘したワークショップ等の実施数 (新たな総客への取り組み) B 公演事業における英語字幕の実施率 (国際プレゼンスの向上) <支援対象外事業を含む> C 海外作品の公演回数 D 海外美術作家の招聘展示回数	A 年間1回以上 B 10割 C 年間5回以上 D 年間1回以上	1回 10割 公演回数12回(うち演奏会2回) 1回	(国際交流) 人材養成事業番号1 朗らかな外国人俳優にワークショップを実施してもらい、子どもたちの自己開示のきっかけとなった。 (新たな創客への取り組み) 公演事業すべてでセリフの英語字幕を提供した。利用者の満足度も高かった。外国人の来場も増えており、創客のきっかけとなっている。 (国際プレゼンスの向上) 二つの指標をともに超えることができた。鳥取という小さい県における芸術活動が、毎年の継続の中で、外国人にも知られるようになっている。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・面識のない韓国の演劇人が、当劇場の活動について知ることを目的にグループで来訪した。 ・当劇場の演劇祭に参加したいという海外劇団から、作品についての売り込みが多く来る。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
(文化拠点) A 地域の一般市民参加型の公演事業回数	A 年間延べ4回以上	8回	文化拠点、地域連携、児童生徒への機会提供のすべてにおいて指標をクリアした。地域内での当劇場の認知は非常に高まっており、学校教育、社会教育、さらに地域の賑わいや未来づくりなどの面において、演劇の果たす役割への期待が高まっている。		
B 地域の団体が主催するイベントの利用実施数	B 年間延べ2回以上	2回			
C 年間を通じてのボランティアの数	C 年間10人以上	のべ115人			
(地域連携) D 地域で実施されるイベントや会合への参加数	D 年間延べ15人以上	のべ231人			
E 地域の学校からの職場体験の受け入れ人数	E 年間延べ2人以上	のべ12人			
(子どもへの機会提供) F 学校に出向く / 学校から劇場へ来場する公演事業数	F 年間延べ15回以上	のべ33回			
G 子どもを対象とした体験ワークショップの実施数	G 年間延べ10回以上	のべ81回			

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

- 劇場のある地域で活動する子ども食堂等を運営する団体から、夏休みに当劇場で子ども食堂を開催したい旨の相談があり、それを受け入れるとともに、同日に劇場でお化け屋敷イベントを開催し子ども食堂を盛り上げた。
- 地域文化拠点として蓄積してきた実績により、内閣府のデジタル国家田園都市構想交付金事業に採択され、令和6年度に、地域の創作と交流の拠点として新施設が建設された。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)多様性・アクセシビリティに関する知識やマインドを持つスタッフの育成を促す。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
(プログラムの多様さ) A プログラムの種類・形態の多様さ (参画者の多様さ) B 福祉施設・特別支援学校・公民館等での読み聞かせ・ワークショップ等の実施箇所数 C 託児サービスを行っている公演数 D 障がいのある人が事業に参加する数 (アクセシビリティ) E 情報保障(日本語の字幕タブレット)の利用数 F 英語版のウェブサイト (スタッフ育成) G 芸術を創造する環境におけるハラスメント講習の受講者率 H 障がい者の理解に関する研修の受講者率	A 4種類以上 B 5箇所以上 C 公演事業の9割以上 D 年間延べ5人以上 E 年間延べ50人以上 F ウェブサイトの新規作成 G スタッフの9割が受講 H インクルーシブ事業(じゆう劇場)に従事するスタッフの10割が受講	4種類 22箇所 10割 年間延べ180人 年間延べ142人 新規作成した 3割が受講 10割が受講	プログラムの多様さ、参画者の多様さ、アクセシビリティ、いずれにおいても目標とする指標をクリアできた。劇場を開かれた場とするという開場以来の理念が定着し、観客にも届いていると考えられる。 指標Gが日程の関係で参加数が少なかった。令和7年度は改善したい。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・チケット料金は、三千円以下に設定し、多くの人に来やすい、家族連れ等でも来やすいことを目指し、それが大変喜ばれている。 ・障がいのある人の来場も多い。 ・コロナにより中断していた託児サービスを再開し、利用者が増えている。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
【観光・教育に特化した地域への貢献】芸術的視点を活用した地域資源の魅力発信を促す。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
<支援対象外事業を含む> A 学校の教科における表現体験ワークショップの実施回数 B 文化祭のステージ発表の支援回数 C 企業に勤める社会人向けの研修事業 D 地域の観光資源を活用した事業回数	A 年間延べ50回以上 B 年間延べ10回以上 C 年間延べ5回以上 D 年間2回	70回 17回 4回 3回	演劇の面白さを普及させ、劇場の価値を地域の未来創造に活かすために四つの指標を定めた。どれも達成され、各所で大変好評であった。		

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	収入のうち、チケット売り上げの割合が低いのが現状の課題。昨年は3, 5%	ご来場数を増やしてチケット売り上げ増を図る。目標4, 5%	実績2. 4%	来場客数は徐々に戻ってきているが、コロナ前の客数を取り戻すにはまだ至っていない。引き続きチケットの売り上げ増に取り組んでいく。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	ウェブページが日本語サイトのみとなっている	ウェブページの英語サイトをオープンする	オープンした。	英語サイトのオープンしたことで、海外に向けての情報発信がやりやすくなった。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	職員・契約含め20代1名、30代3名	若年層の雇用数を増やす 目標: 20代1名増	雇用には至らなかった。	雇用には至らなかったが、若い20代の演劇人の参加できるプログラムや、交流の機会を増やした。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	指針は策定しているが、研修会を行っていない。	ハラスメント防止のための研修会を年1回行う。	一回行った	事業実施との時間の調整がつかず、3割の参加にとどまった。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

当劇場は演劇人による運営の劇場として活動を開始し、令和6年度は19年目の活動だった。

演劇の創作者集団がフランチャイズ劇団として常駐し、作品創作による現代演劇の水準向上と普及を実践するとともに、各種大小の事業による人材養成や劇場芸術の魅力の普及により、活動全体として人々の心に多様に語りかけ、地域の創造性、多様な生のあり方についての寛容さ、人々のつながり等を涵養することを目指した。

どの事業も大変有意義な活動だったと認識するが、いくつか顕著な成果のあったものを挙げてみたい。

公演事業『友達』
安部公房生誕100周年の年ということで、注目度が上がる中での上演だった。ネットの普及により社会の息苦しが意識される中、人間にとっての集団の必要性と、それがもたらすある種の暴力性に目を向けさせる作品で、観客にたいへん好評だった。静岡県舞台芸術センターとの共同事業だったが、作品の質の向上だけでなく、広報・集客的にも有意義であった。

人材養成事業「小鳥の学校」
小5から中3を対象とし、演劇創作にゼロから取り組むことを通じて、創造性やコミュニケーション能力を育成する事業である。異なる年齢の20人の参加者が目的に向けて無心に取り組み、公演後の満足度、やり切った感は非常に高いものがあった。観客の評価も非常に高く、人を育てる場としての劇場の価値を地域に広く知ってもらう事業となった。

普及啓発事業「タイムスリップツアー」
劇場がある鹿野町の住民に取材し、戦前から高度成長期の町や時代の風景を町内各所で演じ、観客はガイドともに回遊しながらそれを鑑賞した。出演者を公募し、小学生、高校生、大学生から社会人、70代の人まで参加があった。公演のにぎやかさ、お祭り感と一人の人の生涯を見つめる静謐な感覚の混在が、多くの人に深い印象を残した。

本補助金により、自己資金の倍の予算で事業を行うことができた。自己資金だけでは、実施できなかった事業も多く、本補助金のおかげで、地域における文化芸術の拠点として、さまざまな事業を、より多くの住民に向けて提供することができた。本補助金の交付に改めて感謝を申し上げます。

・ 所見

